

「レビを弟子にする」

2021年10月29日

ファリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして、彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。(マルコ福音書2章16節～17節)

主イエスは、ガリラヤ湖のほとりに出て行かれると、群衆が集まって来たので、道端でも教えられた。通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見て、「私に従いなさい」と、声をかけられた。レビは、税金を取り立てる徴税人である。当時、穀物や果物に課せられた地稅、人頭稅、収入に応じた所得稅、神殿に納める神殿稅などの法定稅制があった。それに、関稅、通行稅、入場稅、車輛稅、物品稅など、諸々が課稅されるようになった。ローマの豪華な貴族社会を維持するためには莫大な費用がかかり、それを植民地支配した国々から調達した稅制である。法定外の税金は競売という方法を用いて、ローマへの反感を弱めるためにユダヤ人に徴稅させた。徴稅を請け負った人々は、責任額をローマに納めた上で、手数料を自分の収入としようと、法外な徴稅をしていた。ユダヤ人はローマの手先になった徴稅人を「売國奴」と蔑み、共同体から徹底的に排除した。

レビは収税所に座って、通りかかる者たちから通行稅を取り立てる徴稅人であろう。彼は心ここにあらずという悄然とした面持ちで、収税所に座っていたに違いない。主イエスはレビを見て、彼の苦惱の全てを理解した。彼がなぜ徴稅人になったかは分からないが、「売國奴、罪人」として、共同体から交わりを拒否された。誰からも人間として認めてもらえない孤独地獄が、心に大きな空洞を持つ廢人にしたのである。主イエスは、レビに「私に従いなさい」と呼びかけた。するとレビは、即座に立ち上がって、徴稅の務めを投げ捨て、主イエスに従った。茫然自失状態のレビは、主イエスから「わたしに従いなさい」と、自分を必要としていると、求められた声が、人間回帰への声と聞こえ、それに従った。空白の心が、主イエスの一言で充足の心へと復歸したのである。その時、彼は全てを投げ打って、主イエスに従う道を選び取った。人は一言によって、人生を変える時がある。主イエスの呼び出しは、レビにとって、人間に生き返る言葉だったのである。

レビは、主イエスと弟子たちを招き、食事会を催した。そこに、仲間の徴稅人や、罪人とされた人たちが集まって来た。食事会は共にあることを喜ぶ時、場である。彼らは、主イエスの一行と共に食事をし、これまで経験したことのない時を喜び合った。ところが、ファリサイ派の律法学者たちがそれを見て、弟子たちに、「どうして、彼は徴稅人や罪人と一緒に食事をするのか」と非難した。罪人と交われれば罪に染まるという律法理解である。主イエスは、これを聞いて、「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」と言われた。「罪人」は、律法に違反したと烙印され、神から罰せられた者として、人間であることを否定されていた。主イエスは、健全であることを誇る者ではなく、「罪人」を招き、そのような者こそ神の祝福と恵みの下にあると語られた。レビが人間に回復したように、失われた者を神の是認の下に引き戻し、生きる者とする。これが、主イエスが現した福音である。この福音は、律法による差別管理体制を築き上げてきた律法学者たちと激しく対立するものであった。